

| | | |
|------------|-----------|-----------|
| 専門研修プログラム名 | 千曲荘病院 精神科 | 専門研修プログラム |
| 基幹施設名 | 千曲荘病院 | |
| プログラム統括責任者 | 遠藤 謙二 | |

| | | |
|----------------------------|--|--|
| 専門研修プログラムの概要 | 地域社会に根ざした臨床実践的な内容のプログラムを目指している。65年ほどの歴史の中で培われてきた病院で研修することで、精神科医としての基本的な倫理観、患者さんへの共感力、疾病に対する学問的態度などを学ぶことが出来る。児童・思春期精神障害、アルコール・薬物依存症の症例も担当医となり、学びを深められる。 | |
| 専門研修はどのようにおこなわれるのか | 救急、急性期から亜急性、慢性期、児童から老年期、というあらゆるライフステージ、任意入院から措置入院など各種入院形態と3年間のプログラムの中で各施設をローテイトすることにより、多彩な症例を経験することが出来る。また地域社会の中で、精神疾患、アンチスティグマの各種イベント、中学、高校生の職場体験等様々な実践活動を行っており、社会で生活する精神障害者をどの様に支えるのか、ハローワークと連携した就労支援への取り組み等、これからのわが国で求められる社会福祉、地域医療の現場を実際に体験し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの課題等を学ぶことが出来る。総合病院での研修では、症状精神病、器質性精神病、リエゾン精神医療を実践し、精神科医としての幅を広げられる。 | |
| 専攻医の到達目標 | 修得すべき知識・技能・態度など | 精神科疾患の病態、診断、治療に関して、基本的知識、技術を習得する。医療人としてのあるべき倫理を学び、患者さんに信頼される安定感のある人格の涵養に努める。 |
| | 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得 | 医局での患者プレゼン、カンファレンスでの症例提示の基本を学び、また医師同士での自由な討議を通じて、人間および症例理解の深化を目指し、多職種カンファレンスの中で、チーム医療における医師の役割を学ぶ。 |
| | 学問的姿勢 | 教科書、論文検索等で自らの知識の向上を図り、また医学の進歩に貢献するための臨床研究的視点も常に持ち続けることを仕事の基本姿勢とする。 |
| | 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性 | 仕事以外でも人間として社会人として高い倫理性、社会性を身につけるように必要な書籍の紹介をし、医師の社会的活動についても日常会話の中に取り入れ、学んでいく。当院で旗印にしている「三者満足死」や精神障害に関するアンチスティグマ運動にも触れてもらう。 |
| 施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方 | 年次毎の研修計画 | 単科精神科病院の研修を2年間、総合病院およびリエゾン精神医学、地域精神医療の研修を1年間行う。 |
| | 研修施設群と研修プログラム | 研修基幹病院である千曲荘病院と、7つの研修連携病院からなる研修群により、それぞれが得意とする分野の研修プログラムを専攻医の希望を踏まえて選択、研修できる。 |
| | 地域医療について | 民間精神科病院が基幹施設である本プログラムはわが国の精神病床のほとんどが民間精神科病院であるという現実に即し、地域社会に根ざした臨床実践的な内容のプログラム提供を目指している。 |

| | | |
|--|--|---|
| <p>専門研修の評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。 ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6か月ごとに評価し、フィードバックする。 ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研究目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。 ・専攻医と指導医・指導施設の相互評価を各年次ごとに行う。 | |
| <p>修了判定</p> | <p>3年間の研修を終了したとき。</p> | |
| <p>専門研修管理委員会</p> | <p>専門研修プログラム管理委員会の業務</p> | <p>研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。</p> |
| | <p>専攻医の就業環境</p> | <p>1. 就業環境の整備（労務管理） 基幹施設ではその就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇などを与える。 ・勤務（日勤） 8時10分～17時10分（休憩60分） ・当直勤務 17時10分～翌8時10分 ・休日 ①土・日曜日（原則） ②国民の祝日 ③その他病院の指定した日 ・年次有給休暇を規定により付与する。その他、慶事休暇、産前産後休業、介護休業、育児休業など就業規則に規定されたものについては請求に応じて付与できる。それぞれの連携施設においては、各施設の労務管理基準に準拠する。 2. 心身の健康管理 年に1回の健康診断を実施する。産業医による心身の健康管理を実施し、早期発見に努める。それぞれの連携施設においては、各施設の健康管理基準に準拠する。</p> |
| | <p>専門研修プログラムの改善</p> | <p>基幹病院の総括責任者、連携施設の指導責任者からなるプログラム管理委員会で、定期的にプログラム内容について検討する。各年次ごとに行われる専攻医との相互評価からの意見や要望も反映して、継続的な改良を実施する。</p> |
| | <p>専攻医の採用と修了</p> | <p>1. 採用判定方法 プログラム統括責任者との面接結果により採用の適否を判断する。 2. 修了 3年間の研修終了時</p> |
| | <p>研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件</p> | <p>専攻医と指導医で、必要と判断した場合、プログラム管理委員会にその旨提出して、プログラム管理委員会での検討結果に従う。</p> |
| | <p>研修に対するサイトビジット（訪問調査）</p> | <p>同上</p> |
| <p>専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・院長 遠藤謙二 ・副院長 安藤直也 ・医局長 武重宏呂修 ・医師 櫻井剛志 ・医師 上平忠一 ・医師 小泉典章 | |

| | |
|---------------------|---|
| Subspecialty領域との連続性 | 基本領域と専攻医の希望するサブスペシャリティ領域の診療科目を研修できる研修施設群となっている。 |
|---------------------|---|